



事績名

製糊装置導入による品質向上と費用低減

事績の概要

段ボール製造工程には、シートをつくる貼合工程内に、接着用の糊をつくるための製糊工程がある。従来は大型タンク（6,000L）2台で一度に大量の糊をつくり、使い切れなかった分は翌日以降に持ち越していたが、糊は温度の影響や時間の経過により品質が変化しやすいため、結果として生産効率の低下や廃棄などのムダが生じていた。

そこで、小型タンク（2,500L）を3台導入し、少量ずつ製造する方式に変更した。併せて、計量作業の全自動化や防寒対策、オリジナルレシピの導入など、品質向上と費用低減に繋がる自社のノウハウを盛り込み、製糊工程全体を一新した。その結果、製糊時間の短縮と人員削減が図れたほか、糊の使用量が約25%減り、後工程のシート生産スピードも約7%向上した。また、品質向上によりロスが約15%低減した。



企業名 広島段ボール株式会社

取締役社長 井川 勝正
東広島市八本松飯田 2-3-13（広島工場）
TEL 082-428-0225
URL <http://www.hirodan.co.jp/>



広島段ボールは、東広島市に本拠を置く地域密着型の段ボール製造会社です。グループ会社と連携し、ユーザーの多様なニーズに応え、高品質、多機能の段ボールケース・シートを多品種、小ロットで生産、安定供給しています。特に、羽毛粉末を使用し、耐水性と保温性に優れた「KPE 段ボール」は、環境に優しい商品として注目を集めています。